

水素生成装置レンタル

アルハイテック開始 廃アルミ再利用

ベンチャー企業のアルハイテック(高岡市)は、昨年開発した水素生成装置のレンタル事業に乗り出した。廃アルミから水素を発生させる装置で、市販の燃料電池とつなげれば発電ができる。環境に優しい電源装置として、イベント会場の照明などの活用を北陸の企業・団体に提案する。同社が開発した「エ小僧」は、アルミを使ってアルカリと化学反応させて水素を発生させる装置で、食品や薬品の包装紙などアルミの廃棄物を再利用できる。二酸化炭素(CO₂)排出量は、電源を使ってアルミ廃棄物を焼却処分した場合と比べ

て約87%削減できるとい

う。レンタル事業は11月中旬からスタートし、17日には金沢市校下婦人会連絡協議会が同市内で開いた研究大会で、会場照明の電源として初めて利用された。同協議会が紙パックなどから取り出したアルミ約200g

を使って水素約240gを生成し、燃料電池とつなげて発電した。

アルハイテックは、トナミホールディングス(高岡市)などが2013年に北陸クリーンエネルギー研究会と連携して設立した。水木伸明専務は「北陸から全国に水素エネルギーの普及を図りたい」と話した。